

## バングラデシュの市場から

バングラデシュの市場では、ほとんどと言って良いほど、このように色鮮やかな果物が並んだ青果店を見ることができます。筆者が訪れた、ダッカのウットラ地区にある一つの生果店で、バングラデシュを騒がせている問題の一つを見ることができます。

果物や野菜に防腐剤として使用されているホルマリンの問題です。

ホルマリン中のホルムアルデヒド（ホルムアルデヒド【CH2O】の水溶液がホルマリン）には発癌性があり、強い毒性を持ちます。

写真の青果店でも、ホルマリンが散布されている果物が売られています。

店主の話によれば、一部のりんごを除き、全ての果物にホルマリンが散布されたそうです。バングラデシュでは外国から輸入された果物や、腐りやすい魚にホルマリンが使われているケースが多く、ある機関の調査によれば、国内で安全といわれているスーパーマーケットに並んでいる魚でさえ、日本の安全基準値の6倍ものホルマリンが検出されたと聞きます。

一方安全な果物もわずかではありますが、首都ダッカの一部の市場で手に入ります。価格は、この写真の青果店でのオレンジは一個 40 タカ (60 円) ですが、安全なオレンジの場合は一個 400 タカ (600 円) します。

しかし、住民の方々にインタビューしたところ、彼らは、安いホルマリン漬けの方を選ぶそうです。幼いころからホルマリン漬けの果物を食べ続けてきたから慣れているという誤った認識や、収入に対して、安全な食べ物が高すぎるという理由からだそうです。

この状況を鑑み、中学校教育の家庭科で、ホルマリンに対する知識と理解を深め、付着しているホルムアルデヒドの量を減らす方法について、授業で扱うことが義務づけられています。

しかし、それらを知らない世代の多くの人々が、ホルムアルデヒドを基準値以上に帯びた食料を使い、今も食事をしていることに、驚きと戸惑いを感じずにはられません。



ダッカのウットラ地区にある青果店



ホルマリン加工されたあとの葡萄  
色鮮やか。あたりはハエだらけにも関わらず、葡萄には寄り付かない。

## NDMHS 付近の水の状況



茶色く濁った水が出る井戸

水場が茶色く染まってしまうほど、鉄分が含有されている

NDMHS はバングラデシュのダッカ郊外に位置するガジプール県のプーバイル市に位置しています。この地域は農村地帯で、多くの人々が井戸水を使用し、生活をしています。

しかし、この井戸水には鉄分をはじめとする多くの不要なミネラルが含有されています。水が茶色く濁っていることも少なくありません。

NDMHS ではこの水を安全な水に濾過するタンクを使っており、そのタンクのフィルターを見てみると、この地域の水には鉄分が非常に多く含まれていることがわかります。

水に含まれるミネラルの多さは、掘る井戸の深度によって違います。とくにガジプール地区の水には、人体にとって有害な砒素が、地表近くの水には多く含まれているため、十分な深度の井戸を掘る必要があります。



飲み水用濾過機

る



ミネラルを濾しと

フィルター

茶色くそまってしまうほど鉄分が多く含まれている。